

# 令和7年度 第1回健康福祉審議会健康分科会 議事録

日 時:令和7年7月7日(月) 14:00~15:26

場 所:かが交流プラザさくら 204会議室

出席委員:新澤委員、橋本委員、光谷委員、下中委員、山村委員、米山委員、北井委員、  
中田委員、木戸口委員、谷口委員、薮下委員、辻委員、後出委員、佐藤委員

欠席委員:川向委員

(委員15名中14名の参加により過半数に達しており、健康福祉審議会の規定数に達しているため会議は成立)

次第

1 開会

2 委員の紹介

委員交代 加賀市食生活改善推進協議会 森澤委員から米山委員に交代  
石川県南加賀保健福祉センター 藤川委員から中田委員に交代  
加賀市区長会連合会 辻井委員から谷口委員に交代  
加賀商工会議所 谷本委員から辻委員に交代

3 あいさつ 北口市民健康部長

4 議題

議事進行:北井会長

(1)令和6年度の事業の実績および令和7年度の主な取組について

①健康増進事業について 資料1参照

質疑応答

薮下委員:特定健診受診率で西谷地区が高く伸びた理由は何か。

事務局:地区にお聞きしたが、これをしているからの理由は特段なく、地区のつながりが強いことが関係しているのではと考えている。

北井会長:健診対象者の母数は。

事務局:128名。

北井会長:顔が見える関係ということか。顔見知りで伝えていただくことが良かったのか。

薮下委員:HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)が高いことは、年齢に関係するのか。

橋本委員:HbA1c は貧血には影響されるが、貧血があると見かけ上は少な目に出る。また、赤血球寿命の影響を受けるが、年齢と直接の関係はない。

北井会長:糖尿病が悪ければ、HbA1c の値は高くなるのでは。

橋本委員:そうです。重症化かどうかで HbA1c は推移するので、年齢や貧血というより、単純に高いか低いかで振り分けをすればよい。

北井会長:石川県と比べ、なぜ加賀市はHbA1cが高い人が多いのか。

橋本委員:食生活や車に頼った生活によって歩かないことが多く、糖尿病の有病率が上がってしまう。田舎にいくほどその傾向が垣間見える。

荻下委員:これまで年齢を言い訳にしてきたが、そういうわけではなかったのか。

橋本委員:年齢ではない。年齢による治療対象の線引きはあるが、糖尿病かどうかの基準値は変わらない。

橋本委員:大雑把に言うと、歩かない地区の方が有病率は高くなる。メタボリックシンドローム全体においても有病率が高いと全国的に言われている。

北井会長:資料9頁のグラフの要因が何か分かれば興味深い。地区毎のデータはあるのか。

事務局:地区別のデータについては、事例を捉え、特徴に応じて対応していきたい。

荻下委員:近年、男性の精子が少ないと聞くと、資料13頁にあるような男性の精子を検査することはできるのか。

事務局:プレコンセプションケアの事業では、希望する女性が対象で、男性の検査については不妊治療として県で行っているの、そちらをご利用いただくことになる。

北井会長:補助はあるのか。

事務局:補助はある。

新澤委員:4頁にあるグラフで特定保健指導 積極的支援実施率が大きく伸びている理由は。

事務局:特定保健指導の中には、回数や手法によって動機付け支援と積極的支援があり、指導回数や市の保健師や管理栄養士、病院、医療機関で行うなどの違いはあるが保健指導を強化した。特に、加賀市医療センターの協力が大きかったことが実施の伸びにつながった。

新澤委員:プレコンセプションケアは大事と思うので進めてほしい。また、歯周病の治療方法はあるのか。

光谷委員:歯周病は歯茎の炎症、戻するには戻るが、歯茎がいったん下がると治癒は難しく、歯周病の進行を遅らせる治療になる。

山村委員:特定健診受診率は県内下位7番目と順位が上がったことは良いが、下位市町に能登地域が多く、地震の影響を考えると喜んでもいられない。受診率が向上した一つには健康づくり推進員が行っている未受診者への健診勧奨があると思っている。現在、40歳、41歳、65歳、66歳を対象に勧奨をしているが、年齢なり枠を増やしてはどうか。能美市の受診率は53%あり、視察にも行った能美市のようにできないものかと。健康づくり推進員でも未受診者がいるので、その方々への勧奨などをするとか。

北井会長:具体的にあつたら。

山村委員:40歳41歳、65歳、66歳を勧奨しているので、42歳と67歳を増やしてもいいと思う。

事務局:検討させていただく。42歳と67歳の2区分が増えることから対象者がどれだけ増えるのか、予算も絡む話であるので、対象者を調べ、今後、健康づくり推進協議会の役員会、理事会にて協議させていただく。

後出委員:健康づくり推進協議会ですが、地区には大きい町と小さい町があって、地区毎の温度差とかもあって名ばかりの健康づくり推進員も多く、なかなか人が集まらない。

そのような中で未受診者勧奨の対象を単純に拡大することは難しいと思う。

ただ、健康づくり推進員のおかげで受診率は向上してはいると思うが。

また、健康づくり推進協議会の理事会が夜 19 時半から開催されるが、高齢者も多いことから、開催時間に配慮していただけるとうれしい。

北井会長:資料を見ると事業の拡大、拡大するとあるが、事業の縮小や廃止はないのか、人員も限られていると思うが。

北口部長:縮小はほとんどなく、継続、拡充となっているが、会計年度任期職員を増やしたりした体制で取り組んでおり、加賀市医療センターはじめ医療機関の協力等、外部の組織・機関の協力をいただき取り組んでいる。

北井会長:健康課職員の健康が損なわれないか心配になるところである。

## ②予防接種事業について 資料2参照

### 質疑応答

谷口委員:带状疱疹ワクチンが認知症予防に効果があると聞くが低下効果があるのか。

北井会長:低下したというアメリカの確固たるデータはあるが、何故下がったのかまでの立証に至っておらず、予防できるかは不明な状況。

数下委員:70 歳を超えたら、毎年、带状疱疹ワクチン対象者にしてほしい。また、一度罹った人は予防接種が必要なのか、ワクチンを打った時の効果は。

事務局:带状疱疹ワクチンの定期接種は、国の方針であるので、市が独自にするものではないことを理解いただきたい。5 歳刻みで行い、65歳以上の方全てを5年かけ接種するもので、ワクチンの供給量を考慮して定められている。

ワクチンを接種していなく带状疱疹を発症した人でも予防接種の対象となる。

国からは带状疱疹ワクチンを接種された方は、定期接種の対象者から外すように指導されているが、かかりつけ医と相談の上、接種が必要と先生の判断になれば、定期接種の対象になる。

橋本委員:带状疱疹を罹った人は、脊髄神経の中にウィルスが隠れているので、带状疱疹になりやすいため、接種した方がよい。

北井会長:そうですが、毎年ワクチンを接種する必要はない。

## ③感染症対策について 資料3参照

### 質疑応答

なし

## (2)その他

### 第7回 地域共生社会推進全国サミット in かが について 資料4参照

### 質疑応答

北井会長:ご協力をとの説明があったが、健康分科会としての協力なのか。

事務局:健康分科会に所属の団体には、実行委員会に参画いただいております、運営の部分で企画を一緒に考えていただき、本番にもご協力をお願いしたい。

北井会長:サミットは国のどこがしているのか。

事務局:厚生労働省になる。

後出委員:団塊の世代が後期高齢者になり、非常に高齢者が増加してきており、特にひとり暮らしとか高齢者家族とか、そういう世帯も多くなっている。市の地域包括支援センターも一生懸命しているが、高齢者が増加すれば、地域の人を地域で支えることをしなければ、市だけでは回るなんて思えない。それで地域の高齢者を地域の人が支える、高齢者を支える人を支えやすいような仕組みを、長い目で見て対策を考えていかなければならないのでは。

北口部長:言われるとおり、加賀市においては、団塊の世代の方が75歳になり、その方々も何らかの介護が必要な状態になった中でも、互助の意識で平成の時から小学校区単位で高齢者の窓口を民間の介護事業者に依頼し、いわゆる地区こころまちセンター、ランチという形で16か所設置している。

行政だけでなく介護事業者の力も借りながら、地域で皆様方と一緒に、何ができるかというような地域課題解決の取組を推進しており、山代地区では、九谷広場でラジオ体操を推進するなど地区毎の取組をいただいている。その取組については、厚生労働省からも認められ、全国展開に至っている。どうしたら高齢者を支えやすい体制や仕掛けができるか、皆様の知恵を借りて、さらにより良いものにバージョンアップしていきたい。

## 5 その他

橋本委員:加賀市内在住だけでも国籍が違う方が、予防接種で来られて、英語もあまり日本語もやっと、所持は不十分、予防接種の問診票を分かっているのかと思ったことがあった。何かこの多言語に対する対応で一般診療所では受けられないということがあって、何かよい手がないかを考えていただけないか。

事務局:現在のところ予防接種の問診票については多言語ができていない。今後、対応について検討しなければならないが、国が進めている予防接種のデジタル化の様式で多言語対応の様式で対応すると聞いているので、それも視野に入れて検討していきたい。

北井会長:母子健康手帳は国籍を取らないでも渡してると思うが、妊娠出産される方も多いと思うがどうしているのか。

事務局:母子健康手帳は外国語版が多く出されていて、その中でお母さんが読める言語のものを取り寄せて、出している。

北井会長:母子健康手帳には、予防接種券もあるのでは。

事務局:母子健康手帳には、予防接種の履歴のページはある。

北井会長:結構、その中に問診票がないことが多い。

橋本委員:私のケースでは、子宮頸がんワクチンの接種券を持って来たけれども、日本語はよく分からず、問診票の中身がよく分かっているのかも怪しく、質問しても大丈夫としか返ってこない。これで接種していいのかと悩む。

北井会長:子宮頸がんはキャッチアップとかそういう人だから、日本国籍がないのに接種券は交付されるのか。個別案件だから、個別で話しましょうか。

事務局:子宮頸がんワクチンの予防接種において、外国人の方も多くいる。健康課に接種券

を取りに来られた方が予防接種する場合は、会社で世話をしてる方に随行をお願いし、説明していただくことになっていたが、そうならなかった。申し訳ない。

北井会長:外国人に子宮頸がんワクチン接種券を出す法的な根拠は。

事務局:住民票がある方に対しては、対象にしなければならないことになっている。

北井会長:では、母子健康手帳も一緒なのか。

事務局:母子健康手帳についても、加賀市に在住されてる方については、市で交付する。

北井会長:受ける時の不利益や問診票の不利益についても市が対応してあげないといけないですね。市は住民票のある人に対しては接種してあげる、そういう法的な建付けになっているから、不利益にならないように。

橋本委員:難しい。

北井会長:いや、そういうことになる。

橋本委員:そう。そうなる。

北井会長:いや、だから自分が受けただけなら、自分の勝手だけど、公的に接種券を交付して、公的に受けてくださいって言うてる以上は、不利益にならないように先生が言われるとおりに思う。

事務局:健康課窓口では、外国人の方にポケトークという翻訳機器を使い説明をした上で、接種券等を渡している。もしお話のようなことがあれば、健康課に連絡いただければ、対応する。

橋本委員:了解した。

木戸口委員:地域共生社会推進全国サミットに是非参加したいと思った。7月下旬に予約受付開始とあったが二日間通しなのか、どのような受付になるのか。

事務局:申込み方法については、まだ具体的には知らされていないが、7月下旬に市ホームページ、広報でお知らせするので、確認してほしい。

## 6 閉会